

第1回 理事会

日時：令和4年4月26日(火)13:00~17:00

場所：学会事務局(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)、伊藤副会長、清水副会長、末永常務理事、秋山、稲垣、太田、大沼、奥村、北田、富岡、西山、長谷川(淳)、長谷川(信)、林、船山、升元、三好、和田各理事

齋藤監事

欠席者：池見、大谷、小俣、佐々木、竹村、

徳永各理事、野村監事

(理事25名中19名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和4年3月29日開催の令和3年度第11回理事会の議事録案について承認した。

2. 審議事項

1) 会員状況の確認

- ・事務局長から4月26日時点における会員状況について説明があり、16名の会員の入会を承認した。
- ・4月26日現在、正会員1,810名、学生会員37名、名誉会員54名となり、総数は1,901名であることを確認した。

2) 委員の新任について

- ・災害地質研究部会の2名の委員の新任について承認した。

3) 令和4年度定時社員総会資料について

- ・常務理事より説明があり、現状で確定している内容に基づき、修正があれば指摘頂くこととした。

4) 令和5・6年度代議員総数について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、現状の正会員数に基づき、定款にある「概ね正会員20名につき1名」の基準で算出される90名を代議員の総数として定時社員総会に上程することとなった。
- ・定時社員総会では現行の代議員120名により、令和5・6年度代議員総数が決議されることが確認された。

5) 令和4・5年度理事候補者の理事会推挙について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、留任19名、新任6名の合計25名の理事を推挙し、定時社員総会に諮ることとなった。

6) 令和4年度監事候補者の理事会推挙について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、緒方信一会員を推挙し、定時社員総会に諮ることとなった。また、任期満了となる野村監事は引き続き監事を務めることとなった。

7) 2022年永年会員表彰選考結果について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、総務委員会により選考された3名の会員を永年会員表彰とすることを決定した。

3. 本部からの報告事項

1) 収支状況について

- ・事務局長より、令和3年度3月の本部収支予算について説明がなされた。通期で黒字決算となることが確認された。また、令和4年度本部収支予算について、若干の修正があったことが報告された。

2) 令和4年度総会・シンポジウムについて

- ・常務理事より、総会において予想される出席人数について、表彰対象者と理事・監事の人数を推計すると30名前後、最大50名程度となることが説明された。担当理事より、総会・シンポジウムの会場のうち、主会場の想定収容人数が50名であること、別会場も一室用意しており、収容人数を50名よりも多くすることは可能であることが説明された。議論の結果、会場への来場希望者数をあらかじめ把握し、必要に応じて別会場も利用した運営とするよう検討することとなった。

3) 令和3年度顧問会開催結果について

- ・常務理事より説明があり、顧問会での論点として、会員状況、オンラインによる講習会等イベント、IAEG・国際シンポジウム、学会の国際化等があったこと、協議事項として地盤工学会「応用地質学と地盤工学の協働に関する会長特別委員会」への対応、功績賞の選考方法の考え方等について意見があったことが確認された。

4) 令和3年度後半執務状況について

- ・会長より説明があり、会長、副会長、常務理事の執務状況が確認された。

5) 「第20回地盤災害軽減国際シンポジウム20ISGdR」の後援依頼への対応について

- ・担当理事より説明があり、中部支部への後援依頼の経緯ならびに依頼を受諾したことが確認された。

6) 第13回理化学・工学系学協会連絡協議会報告について

- ・伊藤副会長より内容の説明があり、3月24日に開催された協議会の内容について確認された。

7) 地球・資源分野JABEE委員会第1回運営委員会について

- ・清水副会長より内容の説明があり、4月19日に開催された会議の内容を確認した。本学会からは、小俣理事、竹内真司会員、徳永理事が委員として、清水副会長が監事として参加しており、徳永理事が副委員長になったことが紹介された。

8) 資源・素材学会役員選任について

- ・常務理事より内容の説明があり、3月30日に開催さ

れた資源・素材学会定時社員総会および理事会で選任された会長・副会長が確認された。

9)2022年度「深田賞」募集案内について

・常務理事より内容の説明があり、本学会に関係が深いことから、学会として推薦できる候補を検討することとなった。

10)「研究公正の推進に資する質問紙調査の活用に関する研究」調査結果の報告について

・常務理事より内容の説明があり、アンケート結果の取りまとめ内容が確認された。

11)地盤工学会「応用地質学と地盤工学の協働に関する会長特別委員会」委員の派遣について

・常務理事より、地盤工学会から委員の派遣に関する依頼文書ならびに土木地質研究部会で共有された、地盤工学会会長特別委員会設置趣旨に関する資料が紹介された。

12)他学協会からの依頼

・常務理事より、内閣府「仙台防災枠組2015-2030」グッドプラクティス募集について説明があった。林理事より、「仙台防災枠組2015-2030」は国際的な取り組みであり、対象は東北地方太平洋沖地震に限らず、あらゆる防災への取り組みが対象であることが紹介された。関連する組織で応募対象の有無を確認することとなった。

・常務理事より、日本粘土学会「第65回粘土科学討論会」への後援について、総務委員会で承諾したことが報告された。

13)Zoomのイベント利用とトラブル回避・対処に関する検討状況

・担当理事より、広報・情報委員会で作成した更新版Zoom利用マニュアル、ライセンス・オプション譲渡要請・確認票(案)について説明があった。今後研究企画委員会、事業企画委員会から意見を募り、正式版としていくことが紹介された。

4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

1)総務委員会

・常務理事より、4月20日開催の委員会議事録案が提出された。

・国際委員会におけるIAEG副会長立候補に関する検討状況について確認するとともに、現在総務委員会内協議事項としては、会費に関する検討、新型コロナウイルス感染症への対応であることが紹介された。

2)ダイバーシティ推進特別委員会

・担当理事より、4月5日開催の委員会議事録が提出された。

・6月6日開催予定の令和4年度第1回キャリアデザ

インセミナーについては、学生にも参加頂きたいこと、地盤工学会との協働については本学会と連名で提言を出すことがメリットにつながるという意見があることが紹介された。

5. その他

・次回は5月17日に理事会を開催することとした。また、6月17日の定時社員総会では理事・監事の交代があることから、総会後に懇親の場を企画することを検討することとなった。

・今年度の研究発表会での特別セッションの一つとして「理学と工学の融合における都市開発」があり、現在理事会で議論のある地盤工学会との協働に関する内容の説明があることや地盤工学会との共催について検討されている状況が紹介された。

・常務理事より、留任となる理事・監事には就任承諾書の提出が必要となること、押印される実印に前回から変更があった場合には再度印鑑証明書の提出が必要となることが説明された。